

令和6年(2024年)3月8日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 張 裕 太 郎

## 学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、学校協議会の各委員の方々からご意見をいただきました。

児童アンケートについては、昨年度と比べ概ね向上又は同程度でありました。保護者アンケートでも、昨年度に引き続き半数以上の項目で90%以上の高い肯定的評価をいただいたものの、残念ながらほとんどの項目で昨年度と比べ下がってしまいました。

学校としましてはこのことを真摯に受け止め、今後のよりよい教育活動等のため、改善と発展をめざしてまいります。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方々からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、仲間とともに最後までやり切ることを大切にしながら、学校として組織的・継続的に改善・発展を図ってまいります。今後とも、保護者・地域の方々からご理解と参画を得ながら、関係機関との連携を進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団づくり

自己評価	・今年度の結果で、児童の「学校に行くことが楽しい」の肯定的評価が向上した。特に「そう思う」について年10ポイントずつ向上している。昨年度、課題の一つに挙げていた項目であったが、これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、努めていく。
	・挨拶についても昨年度「よく挨拶できる児童と、そうでない児童が明確に分かれているように見受けられる」としていたが、今年度、児童の意識が変わった一年間ではなかったかと考える。多くの児童が朝から気持ちの良い挨拶をよくしてくれ、地域の方々から、朝の登校時

- ・の子どもたちの挨拶がすばらしい、といった嬉しいご連絡を頂くことがあった。
- ・一方で「学校生活を楽しんでいる」「学校はいじめや子どもの悩みに対応している」「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」の肯定的評価は、「そう思う」のポイントが増加した項目もあるが、昨年度と比べ減少した。児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さないよう、担任一人だけではなく複数名で早期発見・未然防止に努めてきたが、改善が必要だと考える。
- ・「学校は、一人ひとりの個性を大切に、意欲や自信を持たせている」「学校は、互いに認め合い支え合う集団づくりに取り組んでいる」の肯定的評価はともに高い評価をいただくことができてきているものの、昨年度と比べ下がった。これまで以上に、教職員が児童のアセスメントをもとに一人ひとりの良さを大切に、学級集団づくりに活かしていく。
- ・「自分には、よいところがあると思う」の肯定的評価は85%と大幅な増加が見られた。
- ・「思いやりのある行動ができています」の評価は、保護者はほぼ100%、児童も向上した結果が見られた。実際に学校生活の様々な中では、思いやりのある行動がとれている場面が多いように感じるが、粗暴な言動が見られる場面も残念ながらあった。
- ・「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については、児童の肯定的評価の割合は90%を超えた。一方で、学校としては「聞く」ということに関して昨年度同様まだまだ本校の課題の一つだと考えている。児童間トラブル等でも、自分の主張はできるが、人の話を聞く力が弱いことが起因になっているケースが多々ある。
- ・体罰については、肯定的評価が100%でなければならない項目であるが、保護者から「どちらかといえばそう思わない」の回答があった。自由記述欄に記載がなく、また児童の毎学期行う生活アンケートにも訴えがなかったが、教員の児童への言動が原因であると考え、深く反省する。

改善の方向性

- ・来年度ますます少人数になる見込みの中で、普段から一人ひとりの児童への理解により努め、状況を学級担任一人だけではなく教職員で共有して、日々の教育活動に活かしていく。また、保護者自由記述でいただいたコメントから、保護者の方に対してもより丁寧で細かな連絡の必要性を感じた。学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てていきたいと考えている。
- ・今年度も集団づくりのポイントや仕掛けについての校内研修を行えた。これからも、共通理解のもと、児童一人ひとりが安心できる集団づくりをめざす。
- ・「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については前述の通りで、今冬、校内研修を行い、全体で学び合い共有を図った。教員の授業等での工夫や配慮とともに、お互いが心地よく学ぶために相手を大切にする聞き方、話し方など、授業、生活目標や啓発掲示など様々なかたちで継続的に子どもたちに投げかけていき、「人の話をしっかりと聞くことができる」児童の育成に努めていく。

- ・今年度は、特に1年生が率先して気持ちの良い朝の挨拶をし、そのことが他の児童にも良い形で波及した。今後も自分から挨拶しようと思える児童を増やしていきたい。
- ・今年度も子どもたちの声や姿がいっぱいの大型掲示物を作成し、様々な機会を通して、自己有用感を味わえる機会が少しでも多く持つことができるよう、また、児童が成果を感じられるよう、取組みをもてた。それらを児童玄関や廊下に掲示し、いつでも触れられる機会を年間通じて行えた。このようなこともあり、これまで本校の大きな課題の一つとしていた「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的評価の大幅な増加が見られたと考える。今後も、このような取組みを大切にしていくとともに、児童一人ひとりのよい点や可能性、がんばりを見つけ、積極的に評価し、肯定的な言葉かけや適切な評価、最後までやり遂げる経験を通して学級集団に返していくことを大切にする。

関係者評価

\*自己肯定感が伸びたことについて

- ・こんなに伸びたのは初めてだ。十分やってもらっていると感じている。
- ・先生方の努力の結果だったと思う。1年生の挨拶はとても気持ちいい。朝から元気になれる。担任の先生の声掛けもよく、大人が声を掛けてもらってもうれしい。
- ・叱られたり何か嫌なことがあったりしたときに乗り越える力になるのが、自己肯定感だと思う。
- ・自己肯定感が上がっているのはすごいことだ。先生が些細な事も認めてくれて、性格などもわかって付き合ってくれている。トラブルがあると、担任の先生だけでなく、色々な先生と話をしたり聞いていただいたりしているので、色々な先生が関わって下さっているのありがたい。子どもも少ないので、全体で見て頂けるのがすごくよい。続けてほしい。

\*一部の児童の乱暴な言動について

- ・指導は難しいのではないかとと思われるが、複数名での取組みに期待している。過去には担任だけで背負い、しんどくなることもあったがそうならないようにしてほしい。
- ・ちゃんとしている子には、きちんと授業を受けさせてほしい、というのが親だから、自由記述にあるように、そう感じるのもわかる。ボランティアで入っているが、先生みんなで見ているのが分かる。
- ・授業がうるさくて聞こえないということが「楽しくない」というのにつながっているのではないか。
- ・授業中落ち着かない子がいるときに、別室でクールダウンするなど、対策をとっているのはよい。きちんととしていただいていると感じる。
- ・世の中に出ると、叱られることなどたくさんある。将来のことも考え、そういう環境に慣れるためにも子どもをもっと叱ることがあってもよいのではないか。

\*いじめについて

- ・児童の細かな変化を先生方がいろんな角度から見てくださっている。常に子どもの中には、

- いじめがあると認識しておいてほしい。一般的にニュースでは、担任の先生の対応が問題になるケースがあるが、いじめは校長が中心となって対応すべき。担任だけに任せない、逃げたらだめ。それぞれに言い分があると思うが、先生が対応してくれば大事には至らないはずだと考える。
- ・言ったことに対して言い返されてトラブルになることが多いようだが、それはきっと子どもにとってまなびになるはず。そういうトラブルはあってもよい。しかし、明らかに複数で個人をいじめているような状況はあってはならない。アンケートも取って、話もしているなど、先生の対応も改善されている。チームでできている。

確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る

自己評価

- ・「授業は楽しくて、よくわかる」「授業が楽しくわかりやすいと言っている」「学校は、どの子もわかる授業づくりに取り組んでいる」の項目は、肯定的意見の割合は決して低くはないものの、保護者・児童ともに昨年度と比べ下がった。
- ・現在4年生以上で行っている算数の分割・習熟度別学習・TTについても、複数の教員で児童の実態把握を行い、その児童の実態に応じて学習活動を展開できるよう取り組んだが、昨年度と比べ下がった。
- ・「家庭学習や宿題を行っている」の項目も、残念ながら決して高いとは言えない。アンケート項目にはないが、普段の子どもたちの会話から放課後や登校前のゲームや携帯電話、スマートフォンの使用についてよく耳にする。これらも家庭学習に影響があるのではないかと考える。

改善の方向性

- ・授業づくりに関しては、教職員が日々研修に励み、授業改善に取り組んできたが、結果をきちんと受け止める必要性を感じる。学力保障・授業づくりと集団づくりは、どちらかだけではなく、どちらも欠かすことのできない密接な関係にあり、言うまでもなく大切なものである。これからの1カ月はもちろん来年度に向けて、改めて学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。
- ・TT・分割・習熟度別学習や必要に応じての個別指導、具体的な資料やタブレット端末を含む機器等を効果的に取り入れ、児童の理解を助けるよう工夫する。更に、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに、継続して取り組んでいく。
- ・一人ひとりががんばりを認め、適切な評価を行う等により、子どもたちの「学ぶ意欲」をはぐくむ取組みの更なる推進を図っていく。
- ・学習習慣については、児童が自ら基礎・基本を身につけられるように、今年度実施した「家庭学習ウィーク」など定期的の実施していき、更なる定着を図っていく。

関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の少人数に関しては、肯定的な意見が減っていたが、そもそも少人数なので、少人数という感覚やその良さが生かされていないのでは。少人数にすると、切磋琢磨するメンバーも減ってしまうことは気になる。アンケート内容として成り立っていないのでは、と感じる。</li> <li>・社会全体で「書く」ことが減っているように思う。大学生を見ていると、書かなくなっていて、また、書けなくなっているのが気になっている。動画配信等により、「見る」「聞く」ことで終わってしまっていることが多い。そうならないように、小学校で「書くこと」をしっかりと頂いて、それが大学生になってもつながっている状態になるとよいと思う。</li> <li>・ゲームや You Tube などが好きな子どもも多いので、本を読んで書くのが難しければ、ゲームや You Tube を見て、どのような内容かをまとめるという「書く」学習につなげるのも良さそう。他の人が知らないことを文字で表し伝えるために、ノートやレポートとして書くなどということにつなげられれば、You Tube なども意味が有るものになりそう。</li> </ul> <p>*家庭学習ウィーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の評判も良かったので、続けてもらったらよいと思う。中学校でも試験前に計画や振り返り、保護者の一言などを書くようになっていたので、それにつながるよい取り組みだと感じる。</li> <li>・子どもが持って帰るまでは、どのようなことをしたらいいのか困るなど思っていたが、ピアノの練習でもよいというようにハードルを下げてくださっていたので、取り組みやすかった。</li> </ul>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月以降新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、計画を立てていたすべての行事を実施することができた。そのことや昨年度「教職員が、これまで以上に意識して児童に目標を持たせながら、より一層主体的な行事や学校内の諸活動になるよう取り組んでいく。」と改善の方向性を示した通り、児童が主体的に取り組めるよう働きかけたこともあり「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目で、保護者、児童ともに肯定的評価の割合が9割と高い結果であった。</li> <li>・よく外遊びをしている児童と、そうでない児童が明確に分かれているが、多くの教員が子どもたちと一緒に外遊びをしているおり、そのことが児童アンケートの結果にもつながったと考える。</li> <li>・読書については校内においても、よく読んでいる児童と、そうでない児童が明確に分かれている。特に昨年度と比べ、児童の肯定的評価が極端に下がっており、ご家庭での日頃から本に親しむ機会については課題として残った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先にも述べたように、児童の安心安全を最優先に考えながらも、出来得る限り行事を実施できる方向で考え、実際に行うことができた。今後も、児童の経験する機会を確保し取り組んでいきたい。また引き続き、教職員が意識して児童に目標を持たせ、責任のある役割や</li> </ul>

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>本番だけでなく準備・片付けなどを通して、児童による児童のための行事・諸活動になるよう取り組んでいく。</li> <li>・体を動かす喜びを感じられるように、朝あそび・登校班あそびなど多様な活動を実情に合わせて行う。日々の休み時間のみならず、運動する機会を持てるよう意識する。</li> <li>・子どもたちに遊びの場を提供する取組みとして、昨年度より4年生以上の放課後の運動場開放を始めた。参加児童は固定化しているものの、このことも児童アンケートの結果にもつながったと考える。</li> <li>・読書については、校内において、11月13日配付「令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて」でお伝えしましたように、委員会活動を含め、様々な機会に積極的に児童・教職員が読書に関する活動を行っている。ただ昨年度と比べ、児童の肯定的評価が極端に下がっていることから、「うちどく」など家庭で日頃から本に親しむ読書活動を行っていく必要性を感じる。</li> </ul>
関係者評価	<p>*うちどく・読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書は大切。本を読む子どもは、国語の成績もよいと思う。習慣となることが大事。簡単な絵本に流れる子もいるので、みんなでこの本を読もうなどという機会を設けてもよいのではないか。</li> <li>・読書は、嫌いな子にどうやって読ませるかが課題だ。毎朝10分だけでも本を読むという時間を設けてもよいのではないかと思う。</li> <li>・絵本と言っても、とても奥深いものもあるので、絵本も認めてあげてよいと思う。</li> </ul>

地域に学び、保護者や地域との連携につとめる(学校経営に関して)	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備面では、施設全体の老朽化、インターネット環境など、さらなる改善要望の声は多い。</li> <li>・緊急災害時のマニュアルについては、毎年総括し、見直しおよび改訂を行い、学校だより等でお知らせすることができた。校内での避難訓練はもちろん、引渡し訓練も行った。</li> <li>・保護者や地域ボランティアの登下校の見守り、地域とのつながりに関しては、今年度も高く評価されている。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備面では、11月13日配付「令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて」でお伝えしましたように、校内におけるインターネット環境に課題がある。今後も町教育委員会と連携を図り、子どもたちの学習環境の向上に努めていく。</li> <li>・月2回発行している学校だよりや HP などを通じて、地域の方々にも、今後も子どもたちの様子を発信していきたい。</li> <li>・設備の老朽化に関して、改善されていない部分については、日々の点検・補修に努めながら、引き続き町にも改善要望を出していく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、保護者向けの緊急下校訓練を全学年対象に行うことができた。課題点を整理しながら、緊急災害時マニュアルも含めて、今後も随時更新していきたい。</li> <li>・サポーターの方々による従来の授業支援や校内花壇整備に加え、今年度は自治会の掲示板を利用させていただき、地域の方々へ振り込め詐欺への注意等の啓発活動を行った。今後もご支援をいただきながら、地域とつながる活動の幅を広げていきたい。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアさんに入っていたが、何気なく言った一言で凶らずも子どもを傷つけてしまったことがあり、地域の方々が入ることの難しさを感じたことがある。一方で、大人が何気なく言った一言に傷つく子どもを見ると、子どもが打たれ弱くなっているのも気になる。</li> </ul>

(関係者評価) 全体を通して

- ・全体としては、とてもよい結果だったと思う。
- ・どれも凄いと感ずることが多かった。先生の教育の賜です。

(最後に)

年度初めの1学期始業式に「3つの『あ』を大切に」というお話を子どもたちにしました。『あ』から始まる『あいさつ・ありがとう・あたりまえ』の3つの言葉を大切にしましょう、といったお話です。(お話の内容は、学校 HP でご覧ください。)今年度を振り返る中で前述の通り、「あいさつ」に関して、多くの子どもたちが気持ちの良い挨拶をこれまで以上に意識してくれた1年間だったと感じます。おかげで、朝から子どもたちの「おはようございます!」にあふれる中で、自然と「今日も一日頑張ろう!」という元気な気持ちになることができました。

挨拶は、礼儀やマナーであると同時に、相手の気持ちを一瞬で幸せにできる「魔法のこぼれ」でもあります。挨拶や感謝の気持ちを伝える「ありがとう」という言葉に日々接することで、他者への感謝の気持ちが高まったり、言われて嬉しい気持ちになったり、人間関係をより心地良くスムーズにするための潤滑油になったりするのだと思います。今年度、子どもたちが率先して行ったそれらの結果の一つが、昨年度課題にあげていた児童の「学校に行くことが楽しい」の肯定的評価の向上につながったと感じます。また、日々の充実感・幸福度と自己肯定感とは関係しているといわれますが、これまで本校での課題としてあげられていた「自分に良いところがあると思う」の肯定的回答の大幅な増加にも表れたのではないかと考えます。

このことは言うまでもなく、学校だけではなく各ご家庭や地域において、子どもたちの話をたくさん聞いていただいたり、身近な大人に存在を認められ褒められ励まされたりすることも、大きな要因だと考えます。感謝申し上げますとともに、今後も引き続きお願いいたします。

保護者の方々からの肯定的評価は昨年度と比べ全体的に減少したこと、また、全体的に強い肯定

の割合は決して高いとはいえませんが、真摯に受け止め、改善・発展を図ってまいります。そして、これからも「3つの『あ』を大切に」しながら、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、教職員一同、これからも子どもたちとともに様々な教育活動に取り組んでいきたいと思っております。今後とも、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

「3つの『あ』を大切に」という言葉です。『あ』から始まる3つの言葉を大切にしましょう、と言いますが、皆さんはどのような『あ』から始まる言葉を思い浮かべますか。安心や安全、あたたかさなども大事ですが、よく言われるのは毎日の生活の中で、『あいさつ・ありがとう・あたりまえ』この3つを大切にしましょう、という言葉として使われます。

「あいさつ」を大切にできる人は、相手の人のことを大切にできる人です。信頼できる人です。

「ありがとう」が伝えられる人は、小さなことにも気付ける、前向きでステキな人です。「ありがとう」という言葉は、言われた人も嬉しい言葉ですが、言うほうも幸せになれる魔法の言葉です。

「あたりまえ」を大事にできる人は、土台がしっかりとしているのでぐんぐん成長できる人です。野球の大谷選手さんは「特別なことをするために特別なことはしない。普段通りの当たり前のことをする」と言っています。多くの成功者は「当たり前」を大切にしている人です。